

整形外科を志す女性医師の皆さんへ

当科ではこれまでに多くの女性医師が整形外科医として活躍しております。そんな先輩医師をご紹介します。

大泉尚美

整形外科北新病院 上肢人工関節・内視鏡センター（北大 68 期卒）

1. 北大整形外科を選んだ理由

私が北大整形外科を選んだ理由は、出身大学の医局であったことが一番ですが、その他は学生時代の部活動の先輩方や 1 期上の女性医師の先輩が在籍しておられたこと、6 年生の夏休みに見学に行った釧路労災病院が楽しかったこと、など先輩とのつながりが大きかったように思います。言いかえれば、詳しい研修制度などについては入局してから知ったということです。いわば自然の流れで入局した北大整形外科でしたが、年齢を重ねた世界を知るにつれ、非常に恵まれた研修環境であったということを実感しています。北大整形外科は伝統的に各専門分野の班に分かれており、各分野を系統だて学べる大学病院での研修と、臨床経験を積むことのできる関連病院での研修を繰り返すシステムが確立されており、関連病院も札幌市内および地域の基幹病院が多く、経験のある指導医のもとハイレベルな研修を行うことができました。今でも、専門外の分野の外来診療では研修医時代の知識が役に立っています。また、研修医の頃から学会発表や論文作成の機会があり、やる気があれば研究テーマはふんだんにある環境で、これは非常に恵まれていることです。整形外科を考えている学生・研修医の方たちには自信をもってお勧めできる教室だと思います。また、全国的にはまだまだ女性医師が少ない整形外科ですが、当科ではこれまで十数名の女性医師が入局しています。結婚、出産を経験されている先生も多く、その時々状況に合わせていろいろな働き方を選びながら皆さん仕事を続けられています。参考までに私自身の経歴を少しご紹介しますと、卒後 5 年目の研修中に結婚、6 年目に上肢班に入り、7 年目に出産を経験しました。出産後は 3 か月ほど休んだ後、半年間はパートタイムで週数回の関連病院勤務をさせていただきました。出産翌年には大学院に入り、時間が比較的自由になり育児との両立がしやすいコンピューターシミュレーションを用いた肩関節バイオメカニクスの研究を行いました。11 年目から 3 年半の間は主人のアメリカ留学に同行し大学院は休学、完全に仕事は休んでいましたが、帰国後は少しずつブランクを取り戻しながら大学や出張病院での臨床と研究を続け、大学院を卒業することができました。このように、北大整形外科は女性医師がなるべく希望に沿った形で働き続けられるようバックアップしてもらえる教室だと思います。

2. 現在の職場・仕事について

2009年からは札幌市内にある整形外科北新病院 上肢人工関節・内視鏡センターで上肢を専門とした手術・外来を行っています。子供が大きくなるまでは非常勤医として、その後は常勤医として働いています。これまでのキャリアの中でトータル4年以上のブランクは不安もありましたが、周りの先生方や家族の助けもありその後も仕事を続けることができました。女性医師にとって出産・育児と仕事の両立は常に課題であり、計画通りにいかないことも多いですが、焦らず長い目でみてキャリアを続けていただきたいと思います。整形外科は大変というイメージを持つ女子医学生・女性研修医の方もいると思いますが、救急医療や手術から外来での保存治療まで幅広い働き方の選択肢があり、これからの高齢化社会に間違いなくニーズの高まる整形外科はむしろ両立しやすい科ではないかと思っています。

3. 今後の目標

いつまでもたっても新しく学ぶことばかりですが、気が付けば医師としての人生の折り返し地点を過ぎた年になってしまいました。これからは、マンネリにならず新しいことを勉強し続けること、そして今まで先輩から教わったこと、自分が経験してきたことを若い先生方に伝えていきたいと考えています。また、これまで自分が助けてもらった分、これからプライベートと仕事の両立に頑張る若い先生方（男女問わず）の力に少しでもなれればと思っています。